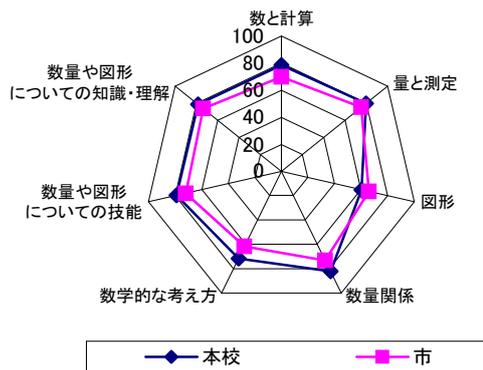


宇都宮市立西原小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	78.6	69.8
	量と測定	79.7	75.2
	図形	60.5	65.7
	数量関係	82.0	73.1
観点別	数学的な考え方	71.7	61.7
	数量や図形についての技能	78.9	72.0
	数量や図形についての知識・理解	78.5	73.8



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	かけ算・わり算の計算が市の平均より約10ポイント上回っている。位取り記数法を理解し、大きな数の問題が市よりも13ポイント上回っている。あまりのあるわり算の文章問題を読み取る力に優れている。4けたの引き算問題では、市の平均よりやや下回っている。表を比べる活用問題では、市よりも15ポイント上回っているが、正答率が50%と低い数値である。	かけ算・わり算の定着率は高く、ほとんどの児童に計算力が身に付いているが、基本的な考え方を基に活用を図る問題では差があるのも事実である。文章問題の読解力を身に付けられるように問題の意味を考えさせ、何を求めたいかについて数多くの問題演習を通して学ばせていく必要がある。また、引き算の計算では、繰り下がりの操作ミスがあるので、この点についても繰り返し学習していくことで定着を図っていく。
量と測定	道のりの意味を理解し、地図から道のりの差を求める問題では、市よりも10ポイント上回っている。また、身近な物の長さを推察して、適切な単位を使う問題でも、約10ポイント上回っている。長さを推察したり、読み取ったりする問題では、市の平均をやや下回っている。	道のりの問題への理解力が高く、図を基に指示された解答を導くことができている。しかし、長さを推察する問題では、生活の中での長さについての意識を高めることが必要となる。また、具体物を操作して、長さを測定していく機会を増やし、児童の体験から長さについての知識を高めていくように支援していく。
図形	「はこの形」の問題では、直方体の辺の長さを考える問題では、ほぼ市と同じ平均点であったが、直方体の面を考える問題では、市よりも約7ポイント下回っている。	2年生の時に実施した「はこの形」問題は、児童への定着率が低かったため、市の平均を下回る結果となった。復習をすることで辺の長さや面について、空間的に捉えさせていきたい。そのためには、具体物を操作することで、体験的に学んでいく学習課程を仕組んでいく。
数量関係	□を使ったかけ算の式に合った文章を考える問題では、市の平均よりも約20ポイント高い数値であるが、平均65点という結果である。棒グラフから人数を読み取る問題では、15ポイント市よりも上回っている。棒グラフを読み取り、提示された条件に該当する項目を示す問題では、平均95点という高い結果である。	□を使った式から、文章問題を求める学習を今後取り入れていくとともに、基礎的な□を使った式を立式する問題を数多く経験させることで問題に慣れさせるようにしていく。また、棒グラフ問題については、高い正答率を示しているが、今後も計算だけでなく数量関係に関連した問題を解いていくことで総合的な算数の力を身に付けていくよう支援する。